

16回：豊臣秀吉

赤（なみ線）は重要
青（ぼう線）は難関



若き日の秀吉（想像）

豊臣秀吉は1537年に生まれました。とても低い身分の生まれだったといひます。主君であった織田信長が本能寺の変でたおれた後、信長を滅亡させた明智光秀をたおしました。本拠地として① 城 を建てました。征夷大將軍にはなれない秀吉は、朝廷から② に に任じられて、全国統一を進めました。

豊臣秀吉は、全国的な土地調査として③ を を行いました。この調査では、田畑の面積を調べて、収穫高を④ で 表しました。④とは、田畑の価値を、その田畑でとれる米の量で表したものです。耕作者を検地帳に登録して、農民が田畑を耕作する権利を認めるかわりに、農民に年貢を納める義務を負わせました。



茶々（淀殿）：秀吉に嫁いで、あとつぎの秀頼を支えた。

1588年、農民の一揆を防いで、農民を田畑の耕作に専念させるために、豊臣秀吉は、武士以外の者から刀や弓、鉄砲などの武器を取り上げる⑤ を を行いました。豊臣秀吉の太閤検地や刀狩によって、武器を持つ武士と百姓などの身分が区別される⑥ が が確立しました。

答え：①大阪 ②関白 ③検地（太閤検地） ④石高 ⑤刀狩 ⑥兵農分離



関白豊臣秀吉

検地や刀狩を行った豊臣秀吉は、織田信長のように關所を廃止して、楽市・楽座も行いました。また、堺や博多や長崎といった主な港町や、佐渡金山や石見銀山のような鉱山を直接支配して、経済力を高めました。

キリスト教の布教を許していた秀吉は、長崎がイエズス会に寄付されていることや、ヨーロッパ人が日本人を奴隷として連れて行っていること、キリスト教徒が神社や寺院を破壊していることを知り、① バテレン令で、キリスト教の宣教師(バテレン)を国外に追放しました。しかし、貿易は認めていたため、キリスト教徒はその後も増えていきました。



朝鮮半島への出兵

全国を統一する途中の1585年に、豊臣秀吉は関白に任命され、1586年には太政大臣に任命されました。全国統一をはたした豊臣秀吉は、明(中国)の征服を目指しました。秀吉は通り道の朝鮮に服従と協力を要求しました。しかし、朝鮮がこれを拒否したため、秀吉は2度にわたって朝鮮を侵略しました。これを② 文禄の役と③ 慶長の役とよびます。2度目の出兵の最中に秀吉が亡くなったため、日本は兵を引きあげました。

答え：①バテレン追放 ②朝鮮出兵